

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770100560		
法人名	医療法人 陽心会		
事業所名	グループホーム たかまーみの家		
所在地	沖縄県那覇市安里3丁目1番47号		
自己評価作成日	平成 25年6月24日	評価結果市町村受理日	平成25年8月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4770100560-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成25年7月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症と言う病気ではなく、その人そのものに目を向け、一人ひとり異なる入居者の人が、今のように感じて、何を求めているか、それを理解して、その人らしい暮らしを支えることで、家庭的な環境で共同生活を営みながら入居者が、より生活に密接し、出来ることを無理のない範囲で行っていただき、安心して生活を送っていただけるようにする。又、可能な範囲で外出支援での気分転換を週1回ペースで計画を立て、わずかな時間であっても環境を変え外の空気を満喫して頂くことで何かを感じてもらえればと思います。当ホームでは、毎月1回専門のセラピストによるアートセラピーを実施しています。目的としては、創作活動そのものを楽しんでいただき、創作する喜びを味わっていただきながら、脳を活性化し、認知症の予防・治療していくことがねらいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員間で理念を共有し入居者がゆったりとした家庭的な雰囲気の中で生活している様子が確認できた。事業所内で3食とも調理し入居者とともに食事を通して健康づくりだけでなく生活全体の楽しみごとになっている。管理者を中心に日々の業務内容やケアサービス内容を全ての職員が共有して理解が図られるようミーティング等の仕組みが整備されている。昼夜ともトイレでの排泄に向けた支援に取り組み、入居者の服装や整髪等から清潔感が確認できた。認知症予防への効果を期待し、アートセラピーを定期的に長年実施し、作品はそれぞれの居室やリビングに飾られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成25年8月12日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を核として、毎朝申し送る前に理念を唱和してミーティングを行っています。	毎日の申し送り時に職員全員で理念を唱和している。本日の調査を通して入居者が穏やかで家庭的な雰囲気の中で生活している様子がうかがえた。安全な介護サービスを提供するために介護事故の際には詳細な記録を残して職員間で再発予防に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の住民との挨拶等、イベント参加が少ないため、地域密着型を常に念頭に置いて活動していきます。	地域密着型サービスの理念にもとづき、事業所に閉じこもらずに入居者の馴染みの場所やドライブに出かけているが、地域住民等の日常的な交流は見られない。自治会行事への参加や保育園との交流も継続的な取り組みが行われていない。	今後、那覇市グループホーム連絡会への参加をきっかけに事業所間の交流だけでなく地元自治会との良好な関係の築き方を学んでほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	基本理念は、玄関口近くに掲示し理解してもらえるように取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスの内容を書面、口頭で報告しています。意見及び改善点などとりあげられた課題は、全職員で対策を考えてサービス向上に取り組んでいます。	2か月に1回定期的に会議が開催されているが家族の参加はみられない。アートセラピーや健康状態等日々の入居者の状況が報告され会議内で密に情報交換されている。特に入居者の安心・安全に関わる事故報告や消防訓練については詳細に話し合われている。	今後は家族の会議への参加を促し、事業所が目指す地域密着型サービスの理念に向けて共に協力し合えるような関係を築き上げてほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎回、運営推進会議へ参加していただきケアの内容について報告したり、アドバイスや意見を参考にしています。又、最近では居室の空情報があれば紹介等があるなど協力関係をえています。	市の担当者も市グループホーム連絡会へ参加し各事業所同志が交流できるよう働きかけている。火災時の避難経路について普段から職員だけでなく家族も意識してもらおうため廊下に掲示するよう助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の見守りの方法を徹底し、一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かくチェックすることで、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしています。	理念の唱和や職員ミーティング等を通して認知症高齢者を拘束しないことの根拠を職員間で共有している。当事業所は2階に位置し、昼間は1階の入り口玄関と2階の出入り口は鍵を開けている。家族には契約時に事業所の身体拘束に関する方針を伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的及び精神的虐待も含めた虐待が無いように常に注意を促しています。		

沖縄県(グループホームたかまーみの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がいます。月に1回は来所される後見人に近況報告をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退去時には、文面に沿って十分な説明を行い、納得してもらったうえで書面による同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置や、サービス内容、苦情担当窓口のパネル掲示等を行っています。家族から苦情(意見)があれば、対応するようにしています。家族面会の際には、意見を伺うようにしています。	家族とはサービス担当者会議や普段の面会時に意見を伝えてもらうよう管理者等から働きかけている。入居者の意見等は日頃の関わりの中から聞き取っている。第三者委員や介護相談員、その他外部のボランティア等による苦情相談の仕組みはみられない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、全体ミーティングの時に職員の要望や意見を聞くようにしています。又、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ問いかけたり、聞き出したりするようにしています。	毎月の職員全体ミーティングにおいてケアカンファレンス・業務内容の見直し・行事の報告準備等を話し合っている。職員からの提案を受けて、カラオケ・回転すしに職員と入居者全員で参加した。現在の管理者が就任してから職員の異動はみられない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら職場内で勉強会を開いています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修などへの派遣、職員のレベルにあった法人内外研修・勉強会への参加ができるように勤務を組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「沖縄県グループホーム連絡会」「那覇市グループホーム連絡会」へ参加して、情報の収集に努めています。		

沖縄県(グループホームたかまーみの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけ対話をする時間を増やし、安心と信頼関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	全職員が相談しやすい環境づくりをして相談者の不安を受け止める努力をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズに合ったサービスが受けられるように細かく面談、アセスメントを行い介護計画書を作成しています。状態の変化に応じて、再度、家族と見直しを行います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室担当職員を中心に入居者と寄り添い、本人の「できること」「やりたいこと」を見つけだし共に行動するようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでのイベント(敬老会や誕生日)または外出支援の際には家族にも声をかけ参加を促しています。そうする事で、よりよい家族関係の構築につながると思います。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	盆、正月に帰省したい方は送迎支援を行い、家族の方が足・腰が弱く、来れない場合も送迎支援を行い家族さんと会う機会を作っています。	数名の方が正月やお盆に帰省している。高齢で健康に不安がある家族に代わって職員が送迎の支援をすることもある。入居に至るまでの経過及び生活歴については聴取されているが、入居者自身が元気だったころの詳細な暮らしぶりまでは把握されていない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂、居間の座席配置については、入居者の状態、人間関係にあわせて配置換えを行っています。		

沖縄県(グループホームたかまーみの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のお見舞いや法事等へ行ったり、退去した家族へ現況をお聞きしたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当職員を中心に全職員で入居者の意向の把握に努めています。また、家族からも聞き取りを行い、ミーティング時に入居者の意向に沿うよう検討しています。	本人から聞かれた意見や希望については毎日の申し送りにおいて情報共有している。入居者自身が人に役に立っているという場面を多く持つよう、職員は日頃から本人の言動を観察しその意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時、入居時、面会時に生活歴の情報を得たうえで、回想法を利用して個々の対応を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者個々の1日の過ごし方を把握して、くつろぐ場所を確保し安全・安心をモットーに支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当職員が入居者の状況把握に努めるのはもちろん、他の職員も何か気づいたことがあれば、担当職員に報告しています。また、ミーティングで各入居者の状況を報告しあい、介護計画に反映しています。	介護計画は更新時期及び必要時に見直しを行っている。サービス担当者会議には家族・本人参加のもと開催しているが職員の参加は見られない。地域でその人らしく暮らし続けるための個別の介護計画まで落とし込まれていない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	居室担当職員を中心に情報収集を行いミーティングで話しあい、介護計画に反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援を柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努力しています。		

沖縄県(グループホームたかまーみの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員の方や婦人会の方等、訪問して頂くことはあったが、地域の一般の方との交流や地区活動への参加は、まだ充分とは言えません。今後、さらに取り組んでいきたいと考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族は、主治医を選択することができ、訪問診療等を希望すれば、定期的にかかりつけ医に受診する体制がとられています。	かかりつけ医への継続受診と母体法人である協力医への変更と選択ができる。受診は家族対応だが、難しい場合は事業所でも対応している。協力医の訪問診療が月2回あり、受診結果は家族へ口頭で伝え、職員間で情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師が来所する日には、利用者の健康面について、一人ひとり申し送りをするようにし、小さいことでも相談し、指示をあおいでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	担当医、ソーシャルワーカーとの面談を持ち、情報の交換等を行い、連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、関係機関と連携して取り組んでいきたいと思ひます。	入居時に事業所の看取りに関する指針を家族に説明している。看取りの体制はあるが、実際に看取りの経験はない。状況に応じて家族と話し、看取りやその後の事までも決めている方もいる。職員への終末期の対応等についての研修は行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には緊急時マニュアルに沿った対応を実践しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年の消防訓練は、自主訓練2回・総合消防訓練2回実施します。	非常階段や滑り台が備えられ、避難するベランダも多くあり、訓練で実際に利用し、降りている。隣接する法人施設との連携は取れているが、近隣住民との協力体制はこれからである。非常用食料(レトルト、缶詰)、防寒具、医薬品等準備してある。来訪者も一目でわかるよう避難経路図が掲示されている。	

沖縄県(グループホームたかまーみの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人記録は、鍵付きキャビネットに保管しています。入浴介助は一人ずつ焦らず急がずゆったりと行っています。トイレ誘導時は、耳元で声かけをするように心がけています。	法人の理念のとおり穏やかに過ごせるよう急かさずゆったりとした声掛けをしている。入居者は洗濯物たたみや消耗品の名前書きなどの役割を担っている。現在は入居者がすべて女性で、職員も管理者を除き女性で、排泄や入浴において同性介助である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	すべての思いを表現できる方は少ないが、コミュニケーションを図り、その人の時代背景を考えながら自己決定できるように促しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の暮らしを、あまり時間の枠にはめたりせず、個人単位で過ごして頂いています。その人の残存機能を活かしながら生活しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を着替える際には本人に選んで頂いています。入浴後の整髪等はご自分で出来る方は、鏡の前で自分でやって頂くのを支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の力量に合わせ、野菜切り、もやしのひげとり、配膳等共に準備をしています。職員も入居者と一緒に食事をします。	職員が献立をたて、三食とも事業所で職員が手作りをしている。入居者と共に食材の買い物に出る時もあり、入居者の希望の食品を購入している。食事時はBGMが流れ、昼食は職員も共に会話をしながら食事を取っている。入居者も下膳、皿洗い等で力を発揮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を確認し、水分摂取の少ない方は、こまめに補給し、食の少ない方には、食事以外の別物で補給したりして必要なエネルギーを確保するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを支援しています。どうしてもできない方はガーゼで拭いたり白湯で流したりして清潔を保つようにしています。		

沖縄県(グループホームたかまーみの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、本人の排泄パターンをよみ、トイレへの時間誘導をしている。遅れたりすると、タイミングがずれ失敗する事もあるが表情・仕草などを観察しながら支援しています。	居室にポータブルトイレを置いている方もいるが、使用している様子はなく、トイレへ誘導している。排泄チェック表で確認し、申し送りも十分にされ情報共有されている。誘導する際も耳元で声掛けし、プライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用して個々の状況を把握しています。症状の重い方は、主治医の指示を受けながら対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、一日おきにしているが、本人が拒否があれば、体調にあわせて曜日・時間の変更は柔軟に対応しています。	入居者は、自分専用の石鹸、ボディーソープやシャンプーを使い、希望する時間帯に入浴を楽しんでいる。バスタブはなく、シャワー浴であるが、足浴で足を温めている。風呂場にエアコンはないが、冬場の寒い時には、ストーブを利用し温度調整をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ離床を促します。昼食後の仮眠時間を30分～1時間半程度とし、本人の眠り心地のいいように環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は、個々のファイルに綴り、看護師の指示のもと、服薬の支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の残存機能を活かして頂ける様にできる作業は、協力してもらっています。時々、外出したり個別に買い物などへ職員と出かけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ミニドライブの支援を行っています。また、日常的には、1～2名をエレベータで1階まで下ろして周辺を散歩しています。	馴染みの市場まで散歩にいたり、ミニドライブで公園まで出かけたり、時には遠くまでドライブして、てんぷらを食べる等、三時のおやつを楽しんでいる。外出し環境を変えることで、食への意欲が湧いてきた入居者がいる。	

沖縄県(グループホームたかまーみの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者は金銭管理ができない為、4名は家族の希望で日常生活用品費としてのお金を事業所で預かっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から、「電話をしたい」と申し出る人は、殆どいません。(手紙の代筆も同様)、家族からの電話は時間帯に関係なく、いつでも取次ぎ支援するようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設は便利な市街地にですが、騒音等はなく静かな環境です。見晴らしや採光は良い。9名が共同生活するには広さも充分だと考えられます。2階の為、庭がなく緑が少ないので鉢物を置くなどしてベランダの緑をもっと増やしていきます。	リビングは明るく、日差しはカーテンで調整し、騒音もなく不快な臭いもない。適度な温度に空調は管理されていて、アートセラピーで作成したうちわが飾られている。リビング前のベランダには鉢植えがあり、ピーマンがなり食卓に上がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外でもカンファレンス用においてあるテーブルやコーナーにソファを置いたりしているので、普段の生活でも面会時でも居室以外の場所で過ごす事ができます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人と家族が相談し自宅からの家具等を持ち込みレイアウトしています。ただし、本人の機能や、転倒防止の観点から注意の必要な方は職員も交えて話し合い、居室の家具等を配置しています。	居室は和室と洋間とあり、ベッドが備え付けられている。和室の入居者で、和式布団を利用している入居者もいる。自宅から使い慣れた椅子、筆筒、鏡台などが持ち込まれ、家族と相談し配置し、家族写真やアートセラピーで作成した自分の作品が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのドアに「トイレ」、居室のドアに「本人の名前」を記入している居室が一部ありますが、表示することで安心感が出てきますので役立っています。		